



さんいく 恭

賛育会後援会事務局・〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8 TEL:03-3622-7614 編集発行者 小泉 美壽

チャリティーコンサートが開催されました。

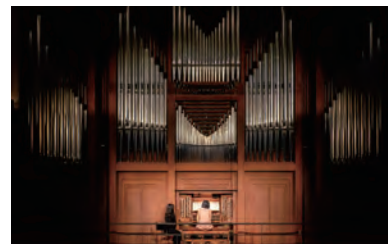
百周年を記念し、華やかな内容で行われました。



出演者のみなさんと「いのち」を披露した賛育会職員合唱団



大谷康子氏、小林研一郎氏指揮、東京フィルハーモニー交響楽団による演奏



松居直美氏の荘厳なオルガン演奏

賛育会病院建て替え支援を目的に二〇年続けてきたチャリティーコンサート。今年も賛育会創立百年を記念して、一〇月二二日、すみだトリフォニーホールにて開催しました。会場には高円宮妃殿下久子様をはじめ山本墨田区長をお迎えし、満席に近いお客様とともに、終始華やかな雰囲気の中での会となりました。百周年の特別な年ということで、指揮者の小林研一郎氏をはじめ、チャリティーコンサートではたびたび出演されているバイオリンの大谷康子氏、オルガンの松居直美氏といった日本を代表する演奏家と、屈指のオーケストラである東京フィルハーモニー交響楽団をお迎えすることができました。

コンサートは荘厳なオルガンの響きで始まり、クラシックの名曲が続ぎ、小林さんのピアノと大谷さんのバイオリンによるサプライズ演奏が飛び出すなど、誰もが楽しめるコンサートだと、ご好評をいただきました。アンコールでは賛育会職員合唱団による「いのち」(古木涼子作詞作曲)がオーケストラの伴奏とソプラノ歌手の尾形志織氏のソロによって演奏されました。この曲の歌詞に共感して集まった職員たちが練習を重ね、オーケストラと共に歌える歓びをかみしめながら、真正面からいのちと向き合うこの曲を歌いあげました。

このコンサートは、一、五五七名のお客様、玉の肌石鹸株式会社様をはじめ一四の企業等のご協賛にお支えいただき、会場でお寄せいただいたご寄付も合わせて七、一三八、九五二円(一月二五日現在集計)の益金が与えられました。感謝をもってご報告申し上げます。この益金は賛育会病院建て替え支援のため賛育会に寄付させていただきます。ありがとうございます。

クリスマスメッセージ

「キリスト御降誕の喜び」—喜びは分かち合い—

日本キリスト教団 東駒形教会

牧師 酒井 薫

「彼(キリスト)の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。」

旧約聖書 イザヤ書五三章五節

二〇一八年クリスマスを迎えます。キリスト(救い主)がお生まれになった御降誕を世界中で、仏教国と言われるこの日本でもお祝いする季節です。クリスマスには喜びの言葉が続くことが多いのです。プレゼント、サンタ、パーティー、ケーキ、街中にイルミネーションの輝きとクリスマスカラーとクリスマスソングがあふれます。

その喜びの源である、彼(伝統的に神の御子キリストと解釈される)は、旧約のイザヤという預言者に与えられた言葉によると、輝かしい風格も、好ましい容姿もない、軽蔑され、見捨てられるという人生を歩むと言われています。その彼がなぜ、喜びの源であるのか。それは、人間の持った一人ぼっちだとの孤独感、誰も自分のことは分かっていない、自分のことは分かってもらっていない、という孤独感に寄り添い、心の傷を味わい知っていただく方、という救い主の誕生だからです。

ハマルティアというギリシャ語があります。「罪」と訳される言葉ですが、元の意味は「的外れ」です。本来の神さまと私たち人間との関係の的外れの部分を、神の御子イエスが自分の身を犠牲にして傷を負い癒してくださいました。この癒された私たちは救い主キリストの御降誕を、私を知っていただく方々の誕生日として世界中の人々と喜びの分かち合いをして共に祝うのです。神の御子のお誕生日おめでとう、と言って。

*題字「さんいく」は、元後援会名誉会長故湯淺恭三氏の筆です。



写真提供：日本雑誌協会



写真提供：日本雑誌協会

皇太子ご夫妻が東京清風園を訪問されました。 (高齢者複合施設 東京都・墨田区)

皇太子同妃両殿下東京清風園ご視察記

2018年9月21日の午後、小雨の降るなか皇太子同妃両殿下が、敬老の日にちなみ東京清風園をご視察されました。

両殿下を乗せた車が東京清風園の玄関に御着し、中村常務理事の先導で施設長や墨田区長、厚労省老健局長や東京都福祉保健局長がお出迎えされた後、館内をご視察されました。

最初に向かわれたデイサービスのフロアでは、数名のご利用者が輪になってボール体操をし、その奥では別のご利用者が歩行訓練や自転車漕ぎなどのリハビリを行っておりました。両殿下はご利用者お一人おひとりに大変丁寧にお声掛けされ、リハビリを指導する職員にもいろいろと質問をされました。また、ボール体操の指導をしていた職員の斬新な髪形にも大変興味を持たれていました。両殿下がお見えになることを知ったデイサービスのご利用者は、コピー用紙で作った国旗を、手元で振って歓迎いたしました。

次に2階の交流ホールに移動され、特別養護老人

ホームのご入居者による手芸活動をご視察されました。ここでは10名のご入居者が二つのテーブルに分かれ、ボランティアの指導のもと毛糸を使って人形を作っています。こちらでも両殿下は皆さんにお声掛けされましたが、特に妃殿下はその可愛い人形にご興味を持たれ、ご入居者とのお話がとても愉しそうにお見受けしました。一人のご入居者からアルパカの人形が妃殿下にプレゼントされるというサプライズもあり、両殿下をはじめ周囲にいる人たちの驚きと歓声が沸きおこりました。

予定時間を超えてしまうほど本当に丁寧にご視察くださり、両殿下もご利用者も終始笑顔で、ご同行させていただいた私はとても温かい気持ちになりました。

お帰りの際、妃殿下はお車の窓ガラスを開け、周囲の人たちへご利用者からお受け取りになった人形を笑顔で見せておられたのがとても印象的でした。

東京清風園施設長：植竹香苗